

企業名

株式会社阿部機械製作所

代表者名

阿部 義和

設立年月日

昭和53年

資本金

1,000万円

従業員数

11名

所在地

〒216-0005

川崎市宮前区土橋5-4-1

TEL. 044-977-3637

FAX. 044-976-5895

<http://www.abekikai.co.jp/>info@abekikai.co.jp

事業テーマ

医療用超音波メス用アルミ部品の生産時間の短縮及び品質向上による国際競争力の向上



阿部 義和 社長

ものづくり補助 広げるきっか

ものづくり補助 金によって 目指したこと

ものづくり補助金を知ったのは平成21年度ものづくり中小企業製品開発等支援補助金のときで、設備購入先の商社からの紹介でした。一次公募は自分達だけで計画書を作成して申請しましたが、残念ながら不採択でした。二次公募も続けて挑戦しましたが、一次で採択された仲間内の会社に計画書の作り方を聞いたり、川崎市産業振興財団に認定支援機関としてバックアップしてもらいながら、無事採択に至りました。二次公募の計画書では素人が読んでも当社が目指す新事業のストーリーが明確に分かるような内容に工夫したのが良かったようです。平成24年度にも、ものづくり補助金が再開されると知って応募を決意、医療機

器向けのアルミ部品加工の海外移転を防ぐための高い品質と生産リードタイム削減、コスト競争力アップを実現することを目指しました。ちょうどその頃、お取引先である米国の医療メーカーによる生産拡大のニュースが報じられていた時期で、最高のタイミングで設備投資を行うことができました。平成25年度も別の課題解決を目指して応募して幸運にも採択されましたが、平成26年度は申請を見送りました。

ものづくり補助 金によって 得られたもの

具体的な計画としては、切削工程の時間短縮のためのCAD・CAMやバリ取り用研磨機の設備投資に加えて、これまで課題であった不具合削減など



助金への挑戦が人脈を けに

川崎市内で事業を営む阿部機械製作所。補助金のチャレンジが神奈川県各公的機関や川崎市内の同業者との出会いを生み、社内社外に好影響をもたらしている事例。



▲作業風景

の工程改善です。当社の従業員だけでなく外注先や外部検査機関とも協力しながら不具合発生の原因追求を進め、なんとか改良品の試作を成功させることができました。その他にも出荷時の検査時間削減など各工程の効率化も着手しています。このような改善を積み重ねていった結果、先程も申したような米国医療メーカーの受注拡大に向けて、さらなる品質向上と効率化を可能にする生産体制を確立させることができました。補助金が採択されたということは国に認められたことだと思っていますので、その中で結果を出せたことは、会社にとっても従業員にとっても大きな自信に繋がりました。

補助金成功で 補得られた人脈

補助金を始めるまでは一匹狼のような企業だったのです。しかし、今回の補助金の挑戦がきっかけで川崎市産業

振興財団や神奈川県中小企業団体中央会、各自治体との交流が始まり、一気に人脈が広がりました。その流れで神奈川県中央会が支援されている協同組合に加入するに至ったのです。そこは約300社が加入している大きな組織で、川崎市の企業の割合が多いですが、これまでお付き合いの無かった神奈川県内の様々な地域の企業と交流する機会が生まれました。今ではその協同組合の青年部部長を務めるまでになりました。青年部では、ものづくり企業25社ほどの若手経営

企業概要

川崎市内において精密部品の切削加工をおこなっている株式会社阿部機械製作所。医療機器や工業用レーザーなど精密部品の加工を取り扱う。40年近くの事業の中で培ってきた技術力をもとに、少量多品種の生産対応、パーマロイやチタン合金などの難素材加工など、高度化するユーザーニーズに応えている。補助金を適切に活用して将来に向けた設備投資を積極的に進めており、5軸加工機を3台も保有している点は同規模の競合他社では珍しい。年々高度化するお客様のニーズに応えるため、材料手配から加工、表面処理まで一貫したサービス体制を整えている点が当社の強みとなっている。自治体や川崎のものづくり企業との交流も積極的な企業である。

者が集結して月に1度集まり、懇親会や工場見学などを行っています。時には中央会や自治体の皆様も参加していただき、本音を言い合える貴重な場になっています。

補助金成功の 補ポイント

平成24年度より「設備投資のみ」という類型が可能になりましたので、最新機能の設備投資を行うだけでも効果はあるかもしれません。ただ資金調達したいというのではなく、「企業をこう変えていきたい」という強い意志がないと本当の成果は得られないと思っています。試作開発のプロジェクトは全従業員や外注先を巻き込む形で進めてきましたが、やはり現場改革はトップダウンではうまくいかないな、と改めて思いました。ものづくり補助金は事業期間に限りがありますので、その中で成果を出さなくてはならない。強い意志のもと、皆で緊張感を持ってやってきたのが成功のポイントであると考えています。